

第6学年「国語」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

成果 ○自分の思いや考えを、理由や具体例を明らかにしながら書くことができる。
○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合う力が定着してきた。

課題 ▼語彙力が乏しく、意味を間違えて覚えている言葉や誤字が多い。
▼集中して話を聞き、話の内容を捉える力が十分ではない。
▼友達の考えから自分の考えを深めたり広げたりする力が十分ではない。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりする力。
- ◇ 情報と情報の関係付けの仕方や図などによる語句と語句との関係の表し方を理解する。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 話し合う目的を十分に理解したうえで活動に取り組むために、めあてと単元の目標を明確にする。

言語活動の工夫

- 「様々な視点から検討すること」「自分の考えを広げること」「互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等を区別すること」ができるように、話し合いや個人内思考等の活動を意図的に設定する。
- 線を引きながら読むこと、メモを取りながら聞くことなどの活動を通して、読んだり聞いたりしたことをより深く理解できるようにする。

ICT活用の工夫

- 読み取った内容や、自分の考えを共有する際に ICT を活用し様々な考え方を交流できるようにしたり、意見をつけ足したりする。

課題解決力育成の工夫

- 児童間での意見交流、ICT機器活用の機会を適宜活用することで、自力解決のための手立てを身に付けるとともに、児童自身はその能力を自覚できるように声掛けや模範の感想の紹介等を通して価値付ける。

達成目標

- 筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。